

古代史教養講座 創立1995

松戸市常盤平 2-18-9

〒270-2261 電話 (047)384-5728 <http://www.geocities.jp/kdil1995>
振込銀行口座 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 6355550 口座名・古代史教養講座

11月5日ゼミは開催します

11月5日ゼミ

- 1、伊勢神宮の創建—増田修作会員
- 2、女王の国々と狗奴国とはについて考える
—槌田 鉄男会員
- 3、上記2テーマの紹介文は、古代史ニュース315号にて掲載済みです。

ゼミ会場と時間13:15~16:50

- 1、全水道会館中会議室(5階)
- 2、全水道会館(8階建て)へのアクセス
- ①JR水道橋東口(お茶の水駅寄り)下車、北方向へ神田川を渡り、徒歩2分。
- ②都営三田線水道橋駅下車、A1出口より北方向へ徒歩1分。○電話:03-3816-4196

ZOOM視聴に就いて(再掲載)

本年11月ゼミより、コロナ環境下に限りZOOMによる視聴を開始します。就いては、下記の条件で、実施しますので、前号に重ねてご案内します。

1. 概要
 - ・開始時期：本年11月ゼミ以降の会員による講演ゼミ。
 - ・実施条件：参加希望者が4人以上。ただし、ZOOMホスト(岡安会員、米野会員)の都合が悪い場合は中止。
 - ・参加費用：ゼミ会費1千円+ZOOM費1千円=2千円
2. 手順
 - ・前月15日頃までに齊藤 潔会員宛にメールで申込む。
 - ・ホスト会員がURL等をメールで連絡する。
 - ・前月末までに参加費を会の口座に振り込む

・ゼミ講演会員がゼミ資料をメールで送付する

歴史の悪役、荻原重秀の功績

—貨幣改鑄への新井白石の偏見と憎悪—

清野 敬三会員記

◇はじめに◇

江戸中期初めの元禄時代は、幕藩体制もほぼ固まり上方を中心に流通経済の発展を基礎にして、町人たちの学芸や文化が華やかに開花した時代である。俳諧の松尾芭蕉・浮世草紙の井原西鶴・戯曲の近松門左衛門・浮世絵の菱川師宣などが活躍している。しかし、政治の面では、5代将軍綱吉の「生類憐みの令」が庶民を苦しめたほか、側用人柳沢吉保の権勢や勘定奉行荻原重秀の貨幣改鑄が、通常おきわらしげひでの歴史では悪とされる。その貨幣改鑄を中心に重秀の財政政策の功罪をみってみる。

重秀は、下級役人から頭角を顕わし、勘定奉行にまで昇りつめる異例の出世を遂げ、綱吉時代後半の危殆に瀕した幕府財政の建て直しに苦闘し多彩な業績を残した。それに対して、新井白石は重秀の貨幣改鑄を憎悪し、弾劾を執拗に繰り返し失脚に追い込んだ。しかし、重秀の貨幣改鑄は、当時の経済規模拡大に伴う通貨需要の増に対応するものであり、且つ金属貨幣の限界に気付き、経済学でいう名目貨幣を実践したもので信用貨幣経済の先駆とも評価されるものである。白石は、重秀の退陣後かつての慶長金銀の品位に復帰する正徳金銀を鑄造したが、現実の経済に追い付かず失敗に終わっている。

◇重秀の生立ちと代官・勘定所の粛清◇

重秀は、万治元年(1658)幕府旗本の荻原十助種重の次男として江戸で生まれ、通称を彦次郎と云った。父種重は、勘定所に勤務した禄200俵の下級役人で、その祖は武田信玄の遺臣で、武田氏滅亡後、徳川家

康に仕えたと云われている。

延宝2年(1674)重秀17歳の時、幕府勘定所の下役(勘定)に召し出され、役米150俵が支給された。当時幕府は、五畿内で新方式での検地(延宝検地)を企画しており、重秀は計画策定から実施の監督において頭角を顕わし、延宝7年(1679)その貢献を評価され最若年で褒賞を受けた。4年後の天和3年(1683)、重秀は26歳で先輩達を差し置いて勘定組頭くみがしらに抜擢された。

延宝8年(1680)新将軍に就任した徳川綱吉は民政に強い意欲を示し、代官の職務怠慢を厳しく取締まるよう勘定所に命じた。代官摘発班が設置され、調査の結果9人の代官が切腹・免職・流罪・追放になった。その後、代官摘発作業が重秀一人に任されることになり、代官2人が他家お預けや切腹となった。

さらに勘定所の幹部人事でも厳しい懲罰人事が行われ、3人の勘定頭がしら(奉行)全員が罷免された。この一連の人事で、30歳の重秀は勘定吟味役(不正の監察役)に抜擢され550石取りとなった。重秀は勘定吟味役になると、諸代官をはじめ勘定所の先輩から後輩まで、摘発をさらに厳しく推し進め、非情ともいえる断罪を実施した。その結果、世襲の代官は一掃されて官僚化が進み、勘定所内の気風は一新した。

当時、新たな金銀鉱山の発見は見込めず、既存の鉱山も衰微した。佐渡金山の生産量も最盛期の8分の1まで落ち込んだ。元禄3年(1690)重秀は佐渡金山再生のため、勘定吟味役兼務のまま佐渡奉行に任ぜられた。坑内の地下水排出のための排水溝の掘削など大規模投資を実施した結果、生産量の一定の回復はみたが、ピークを過ぎた鉱山からの増産は少量に留まった。

◇貨幣改鑄◇

元禄期は、鉱山からの金銀産出量の低下に加え、貿易による金銀の流出も続き、経済発展による貨幣需要の増加に通貨の供給が追いつかず経済停滞の危機にあった。しかも奢侈の風潮が高まり、幕府財政は逼迫し深刻な状態に陥り、元禄8年(1695)幕府は大規模な貨幣改鑄に踏み切った。実施責任者は重秀である。重秀は、慶長金・慶長銀を改鑄して、金

銀の含有量を減らし品位を低下させた元禄金・元禄銀を鑄造し、それを強制的に同価で通用させた。改鑄による幕府の差益金は金銀併せて500万両を超したと云われる。

従来、この貨幣改鑄は、経済を混乱させ激しいインフレーションを招いたとされ、重秀は歴史の悪役に貶められてきた。しかし実状は、貨幣改鑄後11年間の米価の年平均上昇率は名目で3%弱であり、庶民の生活への影響は殆どなかった。むしろ改鑄直後の物価急騰は、主に元禄8・9年の深刻な冷夏の影響によるとみられる(村井淳志『勘定奉行荻原重秀の生涯』集英社)。

貨幣改鑄への非難は、新井白石の偏見に満ちた著述などに引きずられた見方であろう。重秀の貨幣改鑄は、貨幣論でいう「実物貨幣」から「名目貨幣」への転換である。重秀は云う。「貨幣は国家が造る所、瓦礫を以ってこれに代えるといえども、まさに行うべし。今、鑄するところの銅銭、悪薄といえども、紙鈔に勝る。これ遂行すべし。」金属貨幣の限界に気付いた重秀の世界に先駆けた貨幣観である。

◇勘定奉行に昇進◇

貨幣改鑄の功績により、重秀に1千石の加増があった。さらに元禄9年(1696)、39歳で勘定所最高位の勘定奉行に昇進し計2千石に加増され、従五位下近江守に叙された。

重秀が勘定奉行に就任して、次に着手したのが長崎貿易の改革である。当時、外国産生糸の需要増で輸入が増加する一方、日本から輸出する商品が殆ど無く金銀の流出が甚だしかった。元禄12年(1699)重秀は長崎に赴き実態調査の結果、長崎貿易を幕府直轄とした上、金銀流出阻止のため銅の調達を一元化し銅輸出の体制を整えた。これにより長崎貿易から生ずる膨大な利潤が幕府の収入となった。

重秀は貨幣改鑄と長崎貿易改革と並行して、幕臣の給与システム改革である地方直しじかたに着手した。当時、高禄の旗本は直接国や郷から年貢を徴収する知行取りであったが、一般の旗本・御家人は浅草御蔵から米の現物支給りんまい(廩米)を受けていた。この廩米給与を、従来と名目上同水準の知行取りに振り替えた。幕府財政にとっては、凶作による減収などの恒

常的負担が軽減された他、実測検地の実施により増収にもなった。

次に重秀が手掛けたのが、奈良東大寺の大仏殿再興資金調達のための大名領への直接課税である。室町末期に焼け落ちた大仏の頭部は、当時諸国勧進の資金により修復されたが、大仏殿にまでは資金が足りなかった。その大仏殿再建のため、重秀は従来タブーとされていた大名への賦課金徴収に踏み切り再建を成し遂げた。なお、この時重秀が建物の規模縮小を指示したため、現在見る大仏殿は、大仏本体の大きさに比べやや狭苦しく感ずる。

元禄時代の末期は、元禄大地震・宝永大地震・富士山の宝永大噴火など大災害が連続して起こった。その復旧費用として、重秀は再度天領と大名領へ賦課金を課して幕府の財政危機を切り抜けている。これらの功績により重秀は最終的に3千700石を領するに至った。

◇新井白石による弾劾と罷免◇

宝永5年(1709)綱吉が亡くなり、甥の家宣が6代将軍に就任した。重秀の庇護者であった実力者の側用人柳沢吉保も引退し、自ら造った駒込の六義園に隠居した。吉保に代わり間部詮房が幕閣の実権を握り、新井白石が将軍侍講として登場する。

白石の父正濟は上総久留里藩に仕えていたが浪人となり、白石も塾を開いて糊口を凌いでいた。その後、大老堀田正俊へ仕えたが芽が出ず、儒学の師木下順庵の推挙により甲府藩主徳川綱豊に40人扶持の薄給ながら侍講として仕官した。綱豊が家宣として、将軍綱吉の後継者になったため、白石は天下の将軍のお抱え儒者となった。当初は禄高500石の寄合にすぎなかったが、次第に幕政に影響力を与えるようになる。

白石は、重秀の貨幣改鑄を憎悪し、異常ともいえる攻撃を開始した。白石の貨幣観は金銀を神聖視し、貨幣は家康が定めた品位を守るべきという復古的な考えに基づいている。しかも、自然災害が続く原因は、貨幣改鑄という間違った政策をしたからだと言学者らしからぬ荒唐無稽な主張をし、さらに家康時代の幣制に戻せば金銀生産量も増加するとさえ云っている。

白石は再三にわたり重秀の罷免を要求したが、重秀の能力を買っていた将軍家宣は応じなかった。しかし、三度目の弾劾により「荻原と刺し違えをする」と迫られ、病没寸前の家宣はついに重秀の罷免を受け容れるに至った。正徳2年(1712)重秀は勘定奉行を解任され、翌年56歳で死去した。ただし、その死因は、病死か自殺か他殺か判然とせず謎に包まれている。

◇おわりに◇

僕は、新井白石については、偉大な儒学者であるという漠然としたイメージしか持っていなかった。しかし、重秀の貨幣改鑄を非難する独善的な議論や執拗な弾劾をみると、認識を改めざるをえない。白石は武士であることの誇りが高く、商人を軽蔑していた。また気性が激しく、自信過剰でもあった。自叙伝の『折りたく柴の記』を読むと、自らの意見具申の自慢話がつづき鼻に付く。同書では、重秀罵倒にも多くの頁を割いている。重秀が26万両の賄賂を手にしたとも書き、これが後世の重秀悪人の根拠となっている。しかし、他に記録はなく、金額が巨額にも拘わらずその裏付けもなく、白石の独断ではないかとの疑問が残る(大石慎三郎『元禄時代』岩波新書)。

一方の荻原重秀は、超有能な幕府官僚であったが、その秋霜烈日の監査・粛清は多くの人々の恨みを買ったであろう。僕のような怠け者も、あまり友達にはしたくない人柄である。しかし、幕府財政を建て直した功績と、先駆的な貨幣観は高く評価すべきである。堺屋太一氏も、重秀の異才について次のように称賛を惜しまない。「経済というものを全体として理解し、財政をその一環として把える理論的な頭脳を有していた。従って、荻原には、財政を経済政策として考える発想があった。十七世紀の末にこうした考えの持主が現れたのは誠に驚異的であり、当時の西欧の経済学に比べても数等進んでいる。」(『峠の群像』東京書籍) 歴史を前に進めた先駆者として、その悪評は払拭すべきであろう。 以上

ヤポネシアゲノムプロジェクト続報

—磐城 妙三郎会員記—

2019年4月のゼミ「核ゲノムと日本人のルーツの最

新情報」にて新学術領域研究プロジェクト「ヤポネシアゲノムプロジェクト 2018～2023」をご紹介しました。これまでの研究で判明したミトコンドリア DNA 及び Y 染色体 DNA の解析による日本人のルーツ予測と国内で初めて核ゲノムの一部が解読された三貫地縄文人のゲノムデータと国際的に行われた世界中の現代人の集団ゲノムデータとの比較から得られた遺伝的近縁関係と三貫地縄文人の推定分岐年代が 1 万 5 千年前より以前であることが判明したことなどを説明しました。

その後プロジェクトから新しく発表されたの研究成果を続報としてゼミにてご紹介する予定でしたがコロナ禍により不可能となったため、本稿にてその主な成果についてご紹介します。

1. 北海道礼文島の船泊遺跡から出土した女性人骨から全ゲノムを高精度で決定することに成功（国立科学博物館、2019.5 プレスリリース）

完全解読による主な成果（縄文人の標本ゲノム配列として）現代日本人が縄文人から受け継いだ DNA の割合が分かった。 本土 約 1 割、アイヌ民族 約 7 割、琉球民族 約 3 割 これまでの形態学的な分析結果とほぼ一致

① アジア人集団における縄文人の祖先の起源がはっきりしてきた

縄文人の遺伝的要素を持つ人々はロシア沿海州、朝鮮半島、台湾など東アジアの沿岸部に少なからずいることも分かってきた。こうした人たちの一部が日本列島へ渡ってきた可能性が高そうだが、日本列島の縄文人が大陸沿岸部に広がった可能性も否定できない。

② 縄文人の祖先集団の人口動態が明らかになった。過去 5 万年にわたり縄文人集団の規模は小さいまま推移してきたと推定できた。縄文人につながる人々が日本列島へやって来たのは早くとも約 4 万年前なので、それ以前の大陸にいた時代から人口の増加はあまりなかったらしい。

③ 船泊縄文人が持つ遺伝的な特徴がわかってきた

肌の色は濃いめでシミがしやすい、髪の毛は細くて巻きぎみだった、目の虹彩の色は茶か黒、耳あかは湿ったタイプ、血液型は A 型で R h + 、お

酒に強い体質の人、脂肪の代謝に関連する遺伝的変異を持っていた、高脂肪食を摂る人々の集団ではこの変異が有利に働く

④ H L A クラス 1 の配列（白血球の血液型）を決定した

2. 弥生人の核ゲノムの解読成果（国立科学博物館による見解）

① 北部九州 渡来系弥生人 安徳台遺跡 5 号人骨

渡来系弥生人は遺伝的近縁性では朝鮮半島、中国大陸の集団に近いと予測したが、現代日本人の集団の範疇であった、これは縄文人との長期的な混血を経て、独自の遺伝的な構成をもつ集団が成立したと考えられる。

② 西北部九州 縄文系弥生人 下本山岩陰遺跡 男女 2 体

縄文人集団の範疇と予測したが縄文人と現代日本人集団の中間に位置していた、これはかなり混血が進んだ集団とみなせる。

③ 青谷上寺地遺跡（鳥取県）

32 個体のミトコンドリア DNA のハプログループを特定した。

1 個体は縄文系のハプログループであったが、他はすべて大陸系であった。

縄文系との混血が予想より進んでいない。核ゲノムの解析結果を待って 考察する必要がある。

（核ゲノムの解析は 2021 年 3 月時点で正式発表ないが、ヤポネシア季刊誌第 1 巻はる号 2019 年 5 月表紙に 5 体の解析結果が表示されている。いずれも現代日本人に近い遺伝的近縁性を示している）

青谷上寺地遺跡人骨の炭素 1 4 年代の特定を行った結果、推定死亡年代 は 2 世紀後半と推測された。 以上。